



家庭での火災予防

火災原因調査から分かること

消防では、火災が発生すると、なぜその火災が起きたのか?などどのように延焼したのか?などを調査します。火災現場を見ると、それぞれに火災に至る背景があり、一律的ではありません。しかし傾向はあります。その傾向を知ることによって火災を未然のものにできる可能性が高くなります。

平穏な住環境が一転、脅威に

昔も今も出火原因は大きくは変わっていません。「コンロ」や「ストーブ」「たばこ」などは、だれもが火災の原因となると認識しているにも関わらず、なぜ出火原因の主たるものなののでしょうか?

出火に至る原因には、「失火」つまり日々の生活の中でのちよ

つとした不注意や油断、過信といった傾向がみられます。従来から私たち日本人は畳の上で生活してきたため、そこには布団があり、ストーブがあり、生活する際に必要な衣類その他燃えやすいものが身近に置かれています。そのため、いったん火災が起こった際に、その平穏な住環境が一転して脅威となり得るのです。



火災から命を守る鍵

住環境は人それぞれ。環境に適した火災予防対策が求められますが、まずは火災から命を守る重要な鍵として次の3つの習慣づけと4つの対策を行います。そして常に火の用心を。

◆ 3つの習慣 ◆

- ①寝タバコを絶対にしない
- ②ストーブは可燃物から離して
- ③コンロから目を離さない

◆ 4つの対策 ◆

- ①住宅用火災警報器を設置する
- ②防災品を使用する
- ③住宅用消火器などを置く
- ④近所との協力体制を作る

クジラに耳あり

クジラは水中の生活に適応するため、およそ5千万年かけて独特な姿に進化してきました。最古のクジラは、陸上を歩くオオカミのような動物だったことがわかっています。まるで違うご先祖ですが、現在のクジラにつながる共通点の一つあります。それが耳の骨です。クジラの耳の穴は、目の後ろに小さく開いています。クジラはこの穴からではなく、携帯電話やヘッドフォンに利用されている「骨伝導」によって音を聞いています。水中の音の振動を下顎の骨でとらえ、耳の骨へ伝えることで音を感じると考えられています。クジラ



外した頭の骨を裏返したところです。矢印の先、丸い部分が耳の骨です。テニスボールほどの大きさです。

のご先祖は陸上動物でありながら、耳の骨は水中で音を聞くために適した構造になっていったのです。前回、クジラの種類を決めるために頭の骨だけで240カ所ほどを調べると書きましたが、そのうち約70が耳の骨に集中しています。視界の利かない水中で、クジラは視覚よりも聴覚を発達させました。耳の骨に種類の特徴が表れるのはそのためです。

今回の化石調査でも、耳の骨の確認が重要な目的でした。職員総出で重たい頭の骨を外し、3日間かけて慎重に耳の骨を取り出しました。現在も調査は続いています。取り出した耳の骨の前に、このクジラは800万年前の世界でどんな音を聞いていたのか、想像が膨らみます。文明の生まれる遥か昔、雑音のない静かな海の中で、仲間呼びかけにに応じていたに違いありません。

